

前後のリム深度を統一する
セッティングの妙で存在感を発揮!

「これまた見栄えるBRZだ」と思いきや、実はこのクルマZC6後期の純正バンパーとSTエアロを装備した86(ZN6前期)だったりする。室内までブルーのアクセントを入れることで“SUBARU感”マシマシになっているのだ。

クルマ作りはスタンス路線。そのことは、足元のセットアップにも現われている。伝統あるマイスターS1をベースに、前後14度で揃ったネガティブキャンバー角など試行錯誤を繰り返り、リムツラまで含めた魅せ方にこだわり、オーナーのいけちゃん自らがセットアップしていったのだ。

ホイールは「BRZ顔に、自分的に一番シックリくるのがマイスターS1だった」といけちゃん。ディープなリムが欲しいから1ピースは除外し、その上でピアスポルトを求めて3ピースに行き着いたと言う。自分仕様を選べるワークの『カスタムオーダープラン』もフル活用。ディスクとリムは同系色シルバーでまとめたが、ピアスポルトはゴールド。シンプルにまとめつつ、ワンポイントを入れる…。そんなクルマ全体に共通して流れる作り込みが、ここでもなされている。

前後サスはアームまで含めて見直し、下げた状態(エアサス装着)で14度のネガキャン角になるよう設定。見るからに絶妙な仕上げなのだが、これはオーナーの入念&完璧なセッティングあってこそ! フロントはエアバッグへの干渉など、様々な問題が発生したそうで…。コレがクリアできたのは、いけちゃんがプロのメカであるというのが大きいかも!



エアサス装着車は「どの車高にフォーカスするか」がセッティングのポイントになる。当車は車高を下げた状態でリムツラ、前後14度のネガキャンになるよう仕上げた。フロントはメーガンレーシングのロワアーム+ブラケットの長穴加工、リヤはクスコの調整式アームを用いている。車高を上げればストレスなく走れるセッティングもポイントだ。



サイズはフロント9.5J×18-1、リヤ10J×18+5で、このセッティングは前後でリムの深さを同じにするための工夫で、インセットで対応しようとするリムの深さが変わってしまうそうだ。



OWNER
いけちゃん

メカニックとして働いているそうで、そのスキルをフルに活かし愛車を製作。リムツラまで含めた足元の仕上げがもっともこだわったトコ。『第2回ワークフォトコンテスト』で銀賞に選ばれたほどの写真好きでもある。

自分で
セッティング
しました!



オーソドックスで伝統的、かつシンプルなホイールが「BRZ顔に合う!」と、いけちゃんは確信。ディスク(深さの出るOディスク)とリムを同系色にして、ピアスポルトはゴールドに。基本はシンプルで、ワンポイントを入れる作戦だ。

ZN6 × MEISTER S1 3PIECE

ひと
他人と同じじゃつまらない!!
技ありホイール選びAtoZ



シリアルナンバープレートが誇らしげなHKS 2.20ショートブロックエンジン。ボンネット、ルーフ、トランクは米マッシュコンポジット社のハニカム仕様ドライカーボン製、ドアはレポリューションのカーボン製を導入している。車内ではワンオフしたサイトウールケージ製ロールオーバーが自立。ガセットを追加した上で“溶接風”を演出。フルバケ2脚で2名乗車公認を取得している。



ホイールはワークエモーションCR 2P。3ピースモデルもあるが、オーナーはピアスポルトレスのスタイルを求めて2ピースを選択。元々ディスクカラーはホワイトでオーダーしたが、その後に変更している。リムカラーはマットブロンズアルマイトだ。



「リヤフェンダーは片側100mmワイド。しかも、PCDが100なのでホイールは選択肢が少ない」そうで、ワークのマルチピースモデルを選ぶのは必然だったとのこと。リヤタイヤは315幅と、ボディともにボリュームインパクトは凄まじい。

ZN6 × WORK EMOTION CR 2P



OWNER
らっしー

インパクト抜群のフォルムにレアなコンプリートエンジン搭載と、ハイレベルな仕上げが目玉を惹くらっしーさんのZN6。昨年のオブジャン富士でグランプリを受賞した車両だが、さらに進化していた!

フェンダーに対応。ワークエモーションCR 2Pは、キャリバーが程よく見える2×5本スポークもお気に入りだが、インセットを始めたカスタムオーダー

FSWを
走っています!

ワークの2ピースモデルだからこそ
実現した“ありえない”ワイドサイズ

まさに全身隙なし! 圧巻のビジュアルだけじゃなく走りも追求するのが「らっしー」さんの86だ。

エンジンはHKSの2.20ショートブロックにGTⅢ-RSタービンを投入。富士スピードウェイをメインにサーキット走行も楽しんでいる。昨年10月に開催した『オブジャン富士』のユーザーカーコンテストでグランプリに輝いたマシンでもある。

ロケットバニーのワイドボディに合わせたホイールは、フロント10.5J×18-5、リヤ12J×18-32。なんとリヤタイヤに至っては315幅という極太サイズをセットしているのだ。

もちろん、一般的な86用サイズではないが、自由度の高いワークのマルチピースホイールなら問題なし。リヤのリム幅は最大設定に近い12Jを選ぶことで、片側10cmワイドの

も含めて「ベストの選択です」とらっしーさん。ここに合わせるタイヤにもこだわり満載。シヨルダールームチメチメしすぎず、立った形状が好みのブロックセスR888Rにターゲットを絞り、国内在庫がないと知ると海外から取り寄せたというのだ。

走りはもちろん、スタイルまで。海外で主流の“トラックスタンス”を追求するオーナーの、細部にまで気を使った作り込みは見どころ満載。オブジャン富士の後も、ロールケージを新調するなど進化を続けている。